

研究課題:がん医療の均てん化に資するがん医療に携わる専門的な知識および技能を有する  
医療従事者の育成に関する研究

課題番号:H19-がん臨床-一般-001

主任研究者: 国立がんセンター中央病院総合病棟部医長  
片井 均

## 1. 本年度の研究成果

効果的かつ効率的に、がん専門医およびコメディカル・スタッフを育成することを目的として今年度から研究を開始した。薬物療法、放射線治療、緩和医療の3小班に分け、研究を行い、すべての分野にまたがる総合的な研究を主任研究者が行った。

### 1) 総合的研究

すべての分野のがん専門医に、専門医としてのプロフェッショナルリズムを身につけてもらうために卒後臨床教育体制が最も整っているといわれている米国ミネソタ州のメイヨー・クリニックを訪問した。臨床教育者の育成を目的とした日本人指導者候補の留学生としての受け入れと、メイヨー・クリニックの優れた臨床指導医による我が国の医療施設内での臨床教育法の実践指導を行う相互派遣プログラムの実施を決定した。来年度から実施する。

### 2) 薬物療法

医学生、研修医に対してがん専門医に対する啓蒙を図る目的として医学生、研修医のための腫瘍内科セミナーを開催した。参加者は、医学生 28 名、研修医 39 名、合計 67 名であった。セミナー内容は、薬物療法、放射線治療の専門医などの講演、乳がん患者の Tumor Board Case Conference および、グループ討議であった。セミナーの評価は、参加者 85%で有意義との評価であった。大学教育、卒後研修内容に、がん薬物療法(腫瘍内科)が取り入れられていない現状では、今後もこのようなセミナーを通して医学生・研修医に対する啓蒙活動が必要であると思われた。

### 3) 放射線治療

がん診療連携拠点病院が連携した放射線治療専門医育成スキームの作成と実施のため、山形県で、平成 17, 18 年度の放射線治療の実態調査を行った。一般市民、医療関係者を対象とした講演会を複数回実施し、啓蒙・広報活動を行った。さらに、がん治療連携のための東北がんネットワーク組織創設にむけ、意見交換会を開催した。長野県では、信州大学で他病院の放射線治療医、放射線技師の研修を開始した。日本対がん協会の助成を受け、放射線治療医、放射線技師、看護師、薬剤師、研修医、医学生を対象に「がん医療の水準均てん化」に関する研修会を開催した。170 名が参加し、講演および体幹部放射線治療に関する実習などを行った。

臨床試験における放射線治療の品質管理プログラムを利用した放射線治療専門医の育成のため、放射線治療品質管理ツールとして、dry run プログラム(CD-R)の作成を開始した。特殊な放射線治療計画装置を必要とせず通常の PC 上で実行できるプログラムであり、同一症例で各施設の放射線治療医により作成された腫瘍輪郭の確認、相互比較を可能とする。また、同様なツールとして、施設から匿名化後に提出された放射線治療計画データを収集し、インターネット上で治療計画の評価が行えるシステムを構築した。非小細胞肺癌に対する 3 次元放射線治療による線量増加試験において運用を開始した。また、HDR-ICBT の臨床的 QA/QC プログラムの立案に向けたデータ解析及び資料収集を行った。

### 3) 緩和医療

緩和医療の“医療者”教育のため、医療者の集中的講習(2 日間)を京都で企画した(2008年

4月)。講習後の参加施設または緩和ケアチームの教育効果を評価するための、調査項目を決定した。

## 2. 研究成果の意義および今後の発展性

がん治療の専門医およびコメディカル・スタッフの育成制度の試験的運用が、一部分野で開始された。各分野において育成制度が確立し、効果的かつ効率的に育成されれば、わが国におけるがん治療の均てん化ひいては治療成績の向上に直結するものと期待される。また、がんに対する薬物療法、放射線治療および終末期の緩和医療などをそれぞれ専門とする医師が担当すれば、治療成績の向上およびがん患者のQOL向上をもたらす以外に、不適切な医療による医療費の浪費が減少するものと期待される。

## 3. 倫理面への配慮

本研究は直接診療にかかわる研究ではないため研究施行に対する倫理面の問題はない。本研究班は、むしろがん診療の上での倫理的な問題をも包括する教育カリキュラムを考えるものである。

## 4. 発表論文

1. Ohashi M, Katai H, et al : Cancer of the gastric stump following distal gastrectomy for cancer, Br J Surg, 94: 92-95, 2007
2. Sakamoto Y, Katai H, et al : Favorable indication for hepatectomy in patients with liver metastasis from gastric cancer, J Surg Oncol, 95: 534-539, 2007
3. Isobe K, Shikama N, et al : Initial experience with the quality assurance program of radiation therapy on behalf of Japan Radiation Oncology Group (JAROG). Jpn J Clin Oncol, 37: 133-139, 2007
4. Hiraoka M, Ishikura S, et al : A Japan Clinical Oncology Group trial for stereotactic body radiation therapy of non-small cell lung cancer. J Thorac Oncol, 2: S115-117, 2007
5. Yoshinaga K, Nemoto K, et al : Phase I trial of concurrent chemoradiation with weekly nedaplatin in patients with squamous cell carcinoma of the uterine cervix, Gynecol Oncol, 104: 36-40, 2007
6. Ohe Y, et al : Randomized phase III study of cisplatin plus irinotecan versus carboplatin plus paclitaxel, cisplatin plus gemcitabine, and cisplatin plus vinorelbine for advanced non-small cell lung cancer : Four-Arm cooperative study in Japan, Ann Oncol, 18: 317-323, 2007
7. Okano T, Ohe Y, et al : Proteomic signature corresponding to the response to gefitinib(Iressa, ZD1839), an epidermal growth factor receptor tyrosine kinase inhibitor in lung adenocarcinoma, Clin Cancer Res, 13: 799-805, 2007
8. Shimizu T, Ohe Y, et al : Concurrent chemoradiotherapy for limited-disease small cell lung cancer in elderly patients aged 75 years or older, Jpn J Clin Oncol, 37: 181-185, 2007
9. 有賀悦子 : オキシコドンが患者のQOL改善に効果的であった2症例、がん患者と対症療法、18(2): 58-61, 2007
10. 下山恵美, 他 : 経口オピオイド鎮痛薬の重要性とオキシコドンが果たす臨床的役割、がん患者と対症療法、18(2): 6-10, 2007

## 5. 研究組織

①研究者名	② 分担する研究項目	③最終卒業学校・卒業年次・学位及び専攻科目	④所属施設及び現在の専門(研究実施場所)	⑤所属機関における職名
片井 均	がん医療に携わる専門的な知識及び技能を有する医療従事者の育成に関する研究	慶應義塾大学 (1982年卒) 医学博士 腫瘍外科	国立がんセンター 中央病院・胃外科 腫瘍外科学	医 長
丸山 大	がん医療に携わる専門的な知識及び技能を有する医療従事者の育成に関する研究	東京慈恵会医科大学 (1999年卒) 血液腫瘍学	国立がんセンター がん対策情報センター がん対策企画課	研修専門官
村越 功治	がん医療に携わる専門的な知識及び技能を有する医療従事者の育成に関する研究	明治薬科大学 (1981年卒)	国立がんセンター がん対策情報センター	研修専門官
石倉 聡	がん放射線治療に携わる専門的な知識及び技能を有する医療従事者の育成に関する研究	京都大学 (1989年卒) 医学博士	国立がんセンター がん対策情報センター 放射線腫瘍学及び 放射線治療品質管理・ 品質保証	室 長
根本 建二	がん放射線治療に携わる専門的な知識及び技能を有する医療従事者の育成に関する研究	東北大学大学院 (1988年修了) 医学博士 医科学	山形大学医学部 放射線腫瘍学	教 授
鹿間 直人	がん放射線治療に携わる専門的な知識及び技能を有する医療従事者の育成に関する研究	信州大学 (1988年) 医学博士 放射線医学	信州大学医学部 放射線治療学	准教授
戸板 孝文	がん放射線治療に携わる専門的な知識及び技能を有する医療従事者の育成に関する研究	千葉大学 (1988年卒) 医学博士 放射線腫瘍学	琉球大学医学部 放射線腫瘍学	准教授
大江 裕一郎	がん薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する医療従事者の育成に関する研究	東京慈恵会医科大学 (1984年) 医学博士 臨床腫瘍学	国立がんセンター 中央病院・腫瘍内科・ 呼吸器内科 腫瘍内科学	医 長
勝俣 範之	がん薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する医療従事者の育成に関する研究	富山医科薬科大学 (1988年卒) 腫瘍内科	国立がんセンター 中央病院・乳腺内科 腫瘍内科学	医 長
篠崎 勝則	がん薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する医療従事者の育成に関する研究	広島大学大学院 (1999年修了) 外科学	県立広島病院 臨床腫瘍科 腫瘍内科学	部 長

大山 優	がん薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する医療従事者の育成に関する研究	日本大学 (1991年卒) 腫瘍内科学、血液内科学	亀田総合病院 腫瘍内科 腫瘍内科学	部 長
石黒 洋	がん薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する医療従事者の育成に関する研究	千葉大学大学院 (2005年修了)	京都大学大学院医学研究科・探索臨床腫瘍学講座	講 師
服部 政治	がん緩和医療に携わる専門的な知識及び技能を有する医療従事者の育成に関する研究	大分大学 (1992年卒) 麻酔学、ペインクリニック 和医療	国立がんセンター中央病院・手術部麻酔科 麻酔学、緩和医療学	医 員
細川 豊史	がん緩和医療に携わる専門的な知識及び技能を有する医療従事者の育成に関する研究	京都府立医科大学 (1981年卒) 医学博士 麻酔学、疼痛治療	京都府立医科大学 麻酔科 麻酔学	准教授
下山 恵美	がん緩和医療に携わる専門的な知識及び技能を有する医療従事者の育成に関する研究	千葉大学 (1984年卒) 医学博士 緩和医療学	帝京大学ちば総合医療センター・麻酔科 麻酔学、緩和医療学	教 授
有賀 悦子	がん緩和医療に携わる専門的な知識及び技能を有する医療従事者の育成に関する研究	筑波大学 (1987年卒) 緩和医療学	国立国際医療センター 緩和ケア科 緩和医療学	医 長